

過去の実技講習会（一例）

	テーマ	内 容
平成 21 年度	基本的な構え方、打突について	・伊丹市が「なぎなたの町」と呼ばれているいきさつ ・なぎなたの歴史 ・基本的な構え、打突の実技講習
平成 22 年度	指導の際の号令のかけ方、発声法について	・授業を行う際の号令のかけ方 ・発声法について
平成 23 年度	発展的な稽古方法について～仕かけ応じ～	・1年生で行う基本的な打突の稽古（打ち返し）の復習 ・発展的な形の稽古（仕かけ応じ1本目～3本目）の指導法について
平成 25 年度	防具のつけ方について	・防具のつけ方 ・防具をつけての攻防のしかた
平成 28 年度	全国なぎなた指導者研修会の伝達講習	・正しいなぎなたの理解 ・発展的な打ち返し、号令のかけ方 ・脛（すね）と小手をつけての稽古 ・仕かけ応じ4本目、5本目



令和2年1月、伊丹市保健体育科教員授業研究会後に行ったなぎなた講習会

式による授業の実施と公開
〈平成21年度〉
本校において、外部指導者（T2）が中心に授業を行い、保健体育科教員と生徒が一緒に学習していく形式をとった。また、市内の保健体育科教員が、自由に授業を見学できるようにした。また、T2には、当時、本市教育委員会保健体育課職員であり、平成18年度兵庫国体のなぎなた競技において、兵庫チームを完全優勝に導いた針本佳世子氏に依頼した。

〈平成22年度〉
市立東中学校において、前年度の取り組みを引き継ぎ、なぎなた授業を実践することとなった。北中学校で実施したなぎなた授業を収録したビデオを参考にしながら、当年度からは保健体育科教員（T1）が中心となって授業を行い、前年度に引き続きT2に授業に加わっていただき、TT方式で授業を実施した。
各授業の終了後にT2から授業の改善点などのアドバイスを受け、協議しながら授業を進めた。また、東中学校では「修武館」でなぎなたを習っている生徒がいたため、授業前にT2とともに模範演技を生徒に見せたり、針本氏が作成したなぎなたの参考資料を体育館の壁面に掲示したりと、生徒の関心・意欲を引き出す工夫を行った。
〈平成23年度〉
2年間の取り組みを活かしながら、市内8中学校すべてにおいてなぎなたの授業を行うこととした。その際、針本氏がT2として全校を巡回し、TT方式で指導を

■シリーズ■ 中学校武道

授業の充実に向けて

143

つまずきをどう克服したか³⁶ 〔「近代なぎなた」発祥の地・伊丹市でのなぎなた授業の取り組み〕

兵庫県伊丹市立北中学校 主幹教諭 幸山まどか

兵庫県の南東部に位置する伊丹市は、人口約20万人の中規模都市である。市内には、17小学校と8中学校があり、小・中学校間の連携や、中学校における教科ごとの連携が進んでいる。

本市は、平成24年度の学習指導要領改訂に伴う武道、ダンスの必修化に向け、平成21年度に文部科学省の学校体育振興事業の認定を受けた。そこで、女子の武道授業のあり方や、本市の歴史と文化を活かした取り組みを検討した結果、「なぎなた」の授業を実施することとなった。

今回は、なぎなた授業を実施して10年が経過した本校での平成29年度から3年間の取り組みや内容を紹介する。

1 伊丹市でのなぎなた導入の経緯

伊丹市の公立中学校の武道授業で「なぎなた」を実施することになった理由として、①日本三大私設道場の一つと言われる「修武館」があり、「近代なぎなた」発祥の地とされる、②流派の一つである「天道流」が伝承されており、全日本なぎなた連盟の本部がある、③全国高等学校なぎなた選抜大会を開催しているなど、なぎなた競技の普及と発展を推進し

ていること等が挙げられる。

授業の実施にあたっては、教育委員会を中心に、大学教授、伊丹市体育協会、伊丹なぎなた協会、保健体育科教員等が検討を重ねた。

平成24年度の改訂学習指導要領実施以降、伊丹市内の全中学校で武道授業としてなぎなたを取り入れており、平成27年度に行われた第50回伊丹市中学校連合体育大会では、伊丹市8中学校の代表生徒24名によるなぎなた演武が披露された。
(1)保健体育科教員と外部指導者とのTT（チームティーチング）方

〈なぎなた授業の流れ〉

第1学年女子（1～3月）／第2学年男子（10、11月）

（全8時間）

1	なぎなたの歴史・作法	（1時間）
2	足さばき・面打ち	（1時間）
3	八相から面打ち・脛打ち	（1時間）
4	打ち返し（打ち・受け）	（2時間）
5	打ち返し復習	（2時間）
6	打ち返しテスト	（1時間）

第2学年女子（1～3月）

（全8時間）

1	復習・打ちかえし	（1時間）
2	しかけ応じ1本目	（2時間）
3	しかけ応じ2本目	（1時間）
4	しかけ応じ3本目	（2時間）
5	しかけ応じ復習	（1時間）
6	しかけ応じテスト	（1時間）

第3学年女子（1～3月）

（全9時間）

1	復習・打ちかえし	（1時間）
2	しかけ応じ1本目・2本目・3本目	（2時間）
3	しかけ応じ復習、面タオルの付け方	（1時間）
4	防具の着け方	（2時間）
5	しかけ応じ復習、防具を着けて打突練習（しかけ応じ4本目・5本目）	（2時間）
6	しかけ応じテスト	（1時間）



面打ちを練習する2年男子



2人に防具一式があてがわれ、順番に装着する（3年女子）

【2年生女子】
1年生の復習を行って、しかけ応じ1本目、2本目、3本目を学習する。
2年目になると楽しみにしている生徒が増えてくる。1年前の経験が学習効果を上げている。2年生の学習で大切にしていることは、「間合い・気」を意識させることである。
1本目、2本目は1年生で習得した「打ち返し」に動作が入っているため、比較的スムーズに活動できている。
3本目は払われてからの「ふり

かえし面」が難しい。しかし、練習していくにつれて3本目が好きだという生徒が7割を超える。
自己評価表には、3年生でも頑張っており取り組みたいと書く生徒がほとんどである。
【3年生女子】
防具の着装を体験し、しかけ応じ4本目、5本目を学習する。
3年生になると、なぎなたの授業を楽しみにしている生徒が大半である。
防具体験は初めてとなるが、2人1組となり、1時間ごとに交互に防具を着けて活動する。



「大声校歌」

は、伊丹市教育委員会から市内全校に防具各16セットが配備された。
(3)保健体育科教員向けの実技講習会
多くの保健体育科教員が、なぎなたの未経験者であるため、針本氏の協力を得て、なぎなたの指導法を含めた実技講習会を行った。現在、年2回実施されており、令和2年1月にも市立伊丹高等学校の高橋登子先生をお迎えし、指導経験が浅い若手教員が多数参加し、打ち返し、しかけ応じの実技講習を受けた。
こうした取り組みの結果、市内中学校の全てがなぎなた授業を行っている（2020年11月17日現在）。

本校の紹介

2

大変多く、校歌にも歌われる校門の桜は、自慢の一つである。また、「自治・協同・創造」の校訓のもと、全校生徒721名が生徒会活動や部活動に積極的に参加している。大声での校歌斉唱は北中学校の伝統であり、「桜がさきにさくらさく」と体育大会などで披露している。
本校では1～3年生女子はなぎなた授業を、1～3年生男子は柔道を毎年1～3月に実施している。加えて、2年生は10月から8回程度、男子がなぎなた、女子が柔道を学習し、幅広く武道授業を行っている。
【1年生女子・2年生男子】
歴史を学び、作法を学ぶ。打ち返しと足さばきを身につける。
初めてなぎなたを見たり、持つたりする生徒が多い。武道ということ緊張しながら授業を受けている。作法を間違っていない

なぎなた授業の内容

3

と思い、戸惑いながら学習する姿勢が見える。
正面打ちや脛打ちで「ぶん」と音が鳴ると、嬉しそうに練習を続けていた。発声となぎなたの音が合うと、気持ちよく練習をすることができた。
1年生の難関は「繰り込み」で、持ち手を変えて相手の間合いと合わせて受ける姿勢が難しい。ペア学習を取り入れ、生徒が理解しにくい動作は教員が巡回指導を行い、持ち手や足さばきを指導した。
八相から脛打ちの練習（1年女子）



八相から脛打ちの練習（1年女子）

日本教育新聞 電子版サービススタート!
「いつでも、どこでも、見たいときに。」

スマートフォン・タブレット対応

日本教育新聞
NIKKYO WEB

**「日本教育新聞」
ご購入の方は
電子版無料!!**

**お試し無料会員
募集中!**

ホームページからは
会員登録をクリック!

**まずはカンタン
無料会員登録!**



N 日本教育新聞社
JAPAN EDUCATIONAL PRESS
日本教育新聞

検索

実施するカリキュラムにしたことにより、防具の手入れなどを同時期に行うことができ、負担を減らすことができた。また、体育授業でなぎなたをすることが市内全体に知られているため、授業を楽しみにしている生徒が増えている。学年が上がるごとに上達する生徒が増えており、高等学校でなぎなた部に所属する生徒もいる。さらに本授業の内容はオープンスクールで披露し、保護者や地域の方にも取り組みを発表することにより、なぎなたの普及・発展にも繋げている。

指導面においては、伊丹市が作成した教本があることで、学校間で指導する内容が統一され、指導しやすくなった。しかし、本教本について、導入から最初の3年は、伊丹市から冊子が配布されたが、その後、各校でコピーして配布しており、定着していない学校も出てきているという課題がある。

成した教本があることで、学校間で指導する内容が統一され、指導しやすくなった。しかし、本教本について、導入から最初の3年は、伊丹市から冊子が配布されたが、その後、各校でコピーして配布しており、定着していない学校も出てきているという課題がある。

課題は他にもある。若手教員の増加に伴い、武道必修化の時に伊丹市で毎年取り組んでいた実技講習会や授業の進め方を、市内で統一して取り組むことが難しくなってきている。また、武道必修化当初は、市教育委員会からなぎなた

5 武道の授業の意義とは

私自身は伊丹市の保健体育科中

7. 打突

①振り上げてすね打ち（しかけ・応じの2本目）

振り上げてすね打ちも、腰の回転と一緒にしないと、とてもやりにくく、難しい技です。正面打ちと同じように真っ直ぐ振り上げ、右手は体の正中線を通して振り下ろしみぞおちに付けますが、左手は腰の開きにに合わせてやや斜めからすねを打ちます。手の握りは、持ち替えてすねを打ったときと同じです。右足が出たとき振り上げて体は正面になり左足が出て腰が回るので、それと一緒に薙刀を打ち下ろすようにします。 **「スネ!」とおおきな声で。**

① 一歩出て振り上げる。
② 体の開きに沿って、斜めに振り下ろす。
③ 脛を打つ。

2年生で使用している教本。技が図で示されており、初心者でもわかりやすい

4 成果と課題

授業実施という面においては、3学年が、同じ時期になぎなたを

面タオルを頭に巻く動作で初めての1時間が終わる。紐を結んだり、面タオルを巻いたりする習慣がほとんどないため、面タオル・面紐・胴紐の扱いが難しい。防具の片付け方も難しい。ただ、早く正確に着装できたときの達成感は格別である。

防具を着けたペアから打ち返しを行う。防具を着けている人をなぎなたで打つことは、正しい打突と間合い、足さばきを行わないと有効打を打てないことに気づく。そのため、姿勢良くなぎなたを打つことができるようになる。

防具体験まで終わると、しかけ応じ4本目・5本目を学習する。5本目の「突き」が生徒の目には格好良く映るため、ペアで練習を絶え間なく行う姿勢が見られた。